

白川における減災のための 目標(案)について

白川の特徴と住民意識

■白川の特徴と、住民意識(アンケート結果による)

- ①流域の約8割を阿蘇カルデラが占め、その降雨量は全国平均に比べて約2倍(阿蘇山観測所)と多い。
阿蘇カルデラに降った雨は、中流部の河川勾配が急であるため、2~3時間で下流の熊本市街部に到達する。
一方、熊本市街部が位置する下流部では、河川勾配が緩やかとなり流速が低下するため、洪水時の水位が上昇しやすい。また、白川より低い地域で土地利用されていることから、一度氾濫すると浸水範囲は広がりやすい地形特性を持っている。
特に、経済・産業・交通・人口の集積した熊本中心市街部が白川の氾濫域にあることから、甚大な被害が生じる懸念がある。
併せて、阿蘇火山灰(ヨナ)を含む土砂が、大量に流出・堆積する、特殊な地形特性を持っている。
- ②アンケート結果では、「平成24年7月九州北部豪雨の際に約7割の方が避難していない。」という回答であった。
近年の全国的な豪雨災害により「防災意識は高まりつつある」が、「避難情報等の意味を理解されていない方が約5割以上」、「ハザードマップを認識していない方が約8割」にのぼる。
さらに、白川が氾濫しても「自宅は安全で、被害を受けないと思われる方が約8割」となっている。
- ③アンケート結果では、氾濫区域内に住んでいるにもかかわらず、白川を日常的に意識している人や関わりを持っている人の割合が少なく、白川に対する関心や水害リスクの認識が希薄である。
また、防災に対する地域社会での共助の意識も低い。

取り組み目標(案)【白川】

■5年間で達成すべき目標

昭和28年6月や平成24年7月洪水を超える白川の大規模氾濫に対し、**経済・産業・人口が集積した熊本市街部において、『水害に強いまちづくり』と『迅速で的確な避難行動』を目指す。**

■上記目標達成に向けた3本柱の取り組み

1. 白川の大規模氾濫に対し、関係機関が連携し、社会経済・人命への**被害を最小化するための施設整備や緊急排水計画の検討及び地域コミュニティ活性化による避難体制の構築**
2. 白川への関心を高めるとともに、白川特有の水害リスクを認識し、**地域住民の主体的な避難行動や、地域防災力向上に資する水防災教育や啓発活動の推進**
3. 水位が上昇しやすい熊本市街部において、地域住民や災害時要配慮者の迅速な避難行動、企業の的確な防災活動につながる、**正確でわかりやすい防災情報の発信**